

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	和歌山市立 楠見西小学校	岡本 成記
学校所在地		
〒 640-8464 和歌山市市小路31 tel 073(452)7455 fax 073(452)7460		
担当者名		役職名・担当教科
西浦 正也		教諭 6年担任
<p><b>〔学校の概要〕</b></p> <p>本校は和歌山市の北部、和泉山脈の南麓に位置し、山並みがすぐ近くにせまり、山の緑が映え自然に恵まれ環境はとてもよい。昭和40年代後半から宅地造成にともなう人口の増加により、児童数も増大し、超マンモス校となった楠見小学校を3分割した。昭和57年、楠見地区の最も西部を校区とする楠見西分校が発足、翌年、和歌山市の49番目の学校として和歌山市立楠見西小学校が開校した。</p> <p>校区は南北に細長く、南は福島、野崎西小学校区と西は貴志小学校区と接しており、学校はほぼこの中心にある。そして、北より平井・市小路・栗の西端・栄谷の東端の地番からなっている。</p> <p>校区の北の山地は、古来より大阪泉州と紀州をむすぶ平井峠へと続き、交通の要衝であった。その山地より流れ出る打手川が校区の西端を南西に流れ、北東部には一部水田がある。平坦地のほとんどには人家が立ち並んでいる。校区には、南海紀ノ川駅があり、県道粉河加太線が通り交通の便はとてもよい。したがって、アパート・マンション等が多い。2003年には、国道26号和歌山北バイパスが開通し、2004年には、新しい西脇山口線が開通した。これにより交通体系が以前と比べて大きく変わり、交通量が大幅増加した。新道路の沿線には大型スーパーや飲食店舗が立ち並び賑わいを見せている。また、2001年には、駅の近くに河北コミュニティーセンター、2021年には平井ふれあいセンターがオープンし、地域の公的施設として利用されている。地域住民の職業は、商工業、公務員等サラリーマンがほとんどであるが、古くから花木の栽培がさかんで、四季を通しての花の栽培や売買、造園業等に従事する方も少なくない。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
5年生25名、6年生25名	1名 職員3名	楠見西小学校なかよしルーム、転軸山
実践研究テーマ		
豊かな心と実践力のある子どもの育成		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	世界遺産 高野山の魅力を発見しよう！	
<p><b>〔キーワード〕</b> 協働学習 環境学習 情報活用 SDG s</p>		
<p><b>〔単元目標〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山県内に世界遺産があることを知り、高野山の歴史的価値について興味や関心を持つ。</li> <li>・情報を集め、調べたことを相手意識を持ちながらまとめることができる。</li> </ul>		
<p><b>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</b></p> <p>全体 12時間 （「世界遺産 高野山の魅力を発見しよう！」 7時間 ）</p>		
<p><b>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山県世界遺産センター…次世代育成事業における世界遺産事前授業</li> <li>・世界遺産マスター…現地学習、転軸山道普請</li> </ul>		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	世界遺産について知る。(1時間)	世界遺産の意義について知り、興味や気づきを深める。	知識及び技能 関心・意欲・態度 (ワークシート)
2	次世代育成事業に参加することで、世界遺産に触れる。(5時間)	事前学習として、高野山を訪れる前に自然や地理、歴史についてあらかじめ学習しておく。	関心・意欲・態度 (観察、ワークシート)
3	高野山を訪れて学習したことについて、資料を集め、提案の準備をする。(3時間)	Chromeブックを使い、グループで協働できる場を作る。 伝える相手を意識するように声をかける。	知識及び技能 (ノート、Googleスライド、Googleドキュメント)
4	本番に向けた中間発表を行い、お互いにアドバイスを出し合う。(1時間)	相手グループの良いところや改善点を積極的 に出し合うよう促す。	思考力・判断力・表現力 (発表)
5	グループで発表し、学んだことを共有する。(2時間)	相手意識を持ち、別のグループやほかの学年に 伝わるようにする。	思考力・判断力・表現力 (発表)
〔单元学習の成果と課題〕			
<p><b>成 果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元の学習を始めたことで、日本だけでなく世界中にある世界遺産とその意義や、和歌山県や高野山について興味関心を持つことができた。</li> <li>・次世代育成事業に参加することで、教室を離れて直接世界遺産を体験し、また道普請活動で遺産の保全に関わらせていただいたことは、子どもたちにとってとても貴重な経験となった。</li> <li>・单元後半の発表に向けて、5、6年生が混ざったグループで活動することで、異学年の関わりが持てたことも成果になった。Googleスライドを使い、発表に向けてプレゼン資料を作成したが、6年生が5年生に教える場面が多く見られ協働的な学びとなった。</li> </ul> <p><b>課 題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間では、学習の対象に何度か関わりながら深めていくのだが、和歌山市からは地理的にも遠く、もう一度高野山を訪れることはなかなか実現しがたい所が課題と感じた。今回は12時間の单元だったが、1年を通して世界遺産について関わっていく单元を組んだ場合、やはり何度か現地を訪れたい。ただ、今回の次世代育成事業に参加しなければ得られないものもたくさんあったので、本当に貴重な時間だったと思う。</li> </ul>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>子どもたちにとって世界遺産は、教科書やテレビなどで見聞きすることが多い遠い存在だったが、事前授業や現地を訪れ、世界遺産マスターの方々に丁寧に説明していただいたことで、確実に意識が変わったと感じている。</p> <p>他学年の子どもたちに向けた発表も、自分たちが感じ、学んだ世界遺産のことをもっと多くの人に知ってもらいたいという意欲が感じられるものだった。さらに自分たちの住む和歌山県への郷土愛にもつながってほしいと思う。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続して高野山の世界遺産学習を本校の定番の学習としたい。</li> <li>・課題にも記述したが、学習が進んでいく中で見つけた課題を解決するために、何度か高野山を訪れることができる仕組みがあれば、さらに学習が深まっていくように思う。</li> </ul>			

## 様式 2

### 令和4年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

令和4年10月31日(月)

楠見西小学校体育館で世界遺産センターの金井先生から、世界遺産について説明していただいた。子どもたちは世界遺産や道普請について初めて知ることが多く、現地学習への期待と意欲が高まった。

令和4年11月11日(月)

午前の現地学習では、グループに分かれて一の橋から弘法大師御廟までを歩いた。各グループに一人ずつ世界遺産マスターの方々がついてくれ、教科書で学習したことがあり、子どもたちも知っている戦国大名たちの供養塔や逸話の残るお墓などとても丁寧に説明してくれた。奥の院についても詳しく説明してくれ、弘法大師のことを深く学習することができた。

午後の道普請活動では女人道のポイント④を修繕する活動を行った。みんなで一生懸命に土を運び、押し固めて修繕した。とても大変な作業でしっかりと押し固めないと、雨で土が流され削られていくことが分かった。事前の学習で道普請の意義について学習していたため、子どもたちは全員真剣に作業に取り組んでいた。世界遺産を持続していくことに少しでも関わることができたことはとても貴重な体験だった。

その後の事後学習では、自分たちが次世代育成事業で学んだ世界遺産のことをもっとたくさんの人に知ってもらいたいという思いから、まずは下の学年の子どもたちに発表して知ってもらうことになった。資料作りにはGoogleスライドを使い、高野山を訪れた時の5、6年混合のグループで作成していった。

まだ実施できるかは未定だが、他の学習で関わりのある市内の学校に向けても発表できる機会を持てるよう計画している最中である。

